資料１

令和５年度　第3回 大牟田市地域公共交通活性化協議会

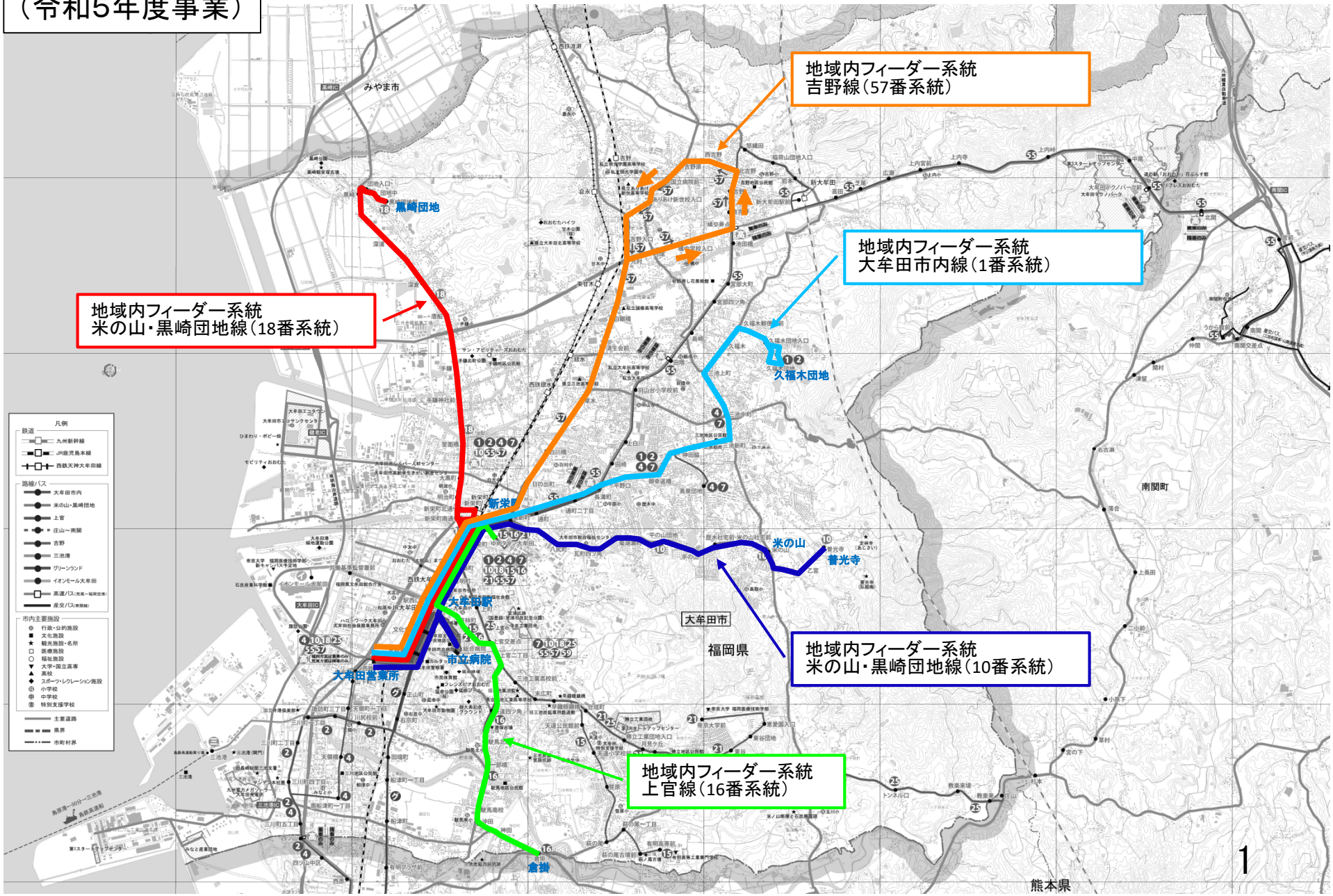
（１）地域公共交通確保維持改善事業（令和5年度事業）に関する事業評価（１次評価）について

＜目次＞

1.令和５年度補助対象路線図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2.地域公共交通確保維持事業に関する事業評価（１次評価）について・・2
3.令和５年度事業　地域内フィーダー系統補助スケジュール・・・・・・3
4.令和５年度事業　地域内フィーダー系統地域公共交通確保維持
　改善事業・事業評価について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
5.補助路線の状況について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４

令和６年１月２３日
大牟田市　国県道路・地域交通対策課

補助対象路線図
（令和5年度事業）



地域公共交通確保維持事業に関する事業評価（１次評価）について

１．生活交通確保維持改善計画（令和５年度）

生活交通確保維持改善計画とは・・・

地域の公共交通の確保や維持・改善を行うために、協議会が地域の生活交通の実情やニーズを的確に把握しつつ、協議を経て策定する地域の特性や実情に応じた最適な移動手段の提供などを行うための計画。交通事業者（西鉄バス大牟田株式会社）が国庫補助金申請に必要となるもの

地域公共交通確保維持事業とは・・・

生活交通確保維持改善計画に基づいて実施される事業

２．地域公共交通確保維持事業に関する事業評価（１次評価）について

当該事業については、事業の効果的、効率的な推進のため、地域公共交通確保維持改善事業補助金交付金要綱（第３条第５項）に基づき、協議会が補助対象事業ごとに事業の実施状況の確認、目標達成状況等の評価を行うことが義務付けられている。

■対象事業：令和５年度事業（事業期間：令和４年１０月１日～令和５年９月３０日）

■対象路線

〇地域内フィーダー系統（米の山・黒崎団地線１８番系統・１０番系統、上官線１６番系統、大牟田市内線１番系統、吉野線５７番系統）

１次評価を**大牟田市地域公共交通活性化協議会（今回）**で実施

⇒九州運輸局へ提出

〇地域間幹線系統（吉野線５５番系統、上官線２５番系統、大牟田市内線２番・４番系統）

路線が県境を越えるため、１次評価は**福岡県バス対策協議会にて実施**

⇒九州運輸局へ提出

令和4年度事業　地域内フィーダー系統補助スケジュール

令和3年度　4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
令和4年度　4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
令和5年度　4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

計画認定申請　認定

R4年度事業
（地域内フィーダー系統補助）
（事業期間　R3.10.1～R4.9.30）

補助金交付申請　一次評価　二次評価　交付決定及び額の確定　補助金振込

令和5年度事業　地域内フィーダー系統補助スケジュール

令和4年度　4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
令和5年度　4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
令和6年度　4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

計画認定申請　認定

評価対象事業

R5年度事業
（地域内フィーダー系統補助）
（事業期間　R4.10.1～R5.9.30）

補助金交付申請　一次評価　二次評価　交付決定及び額の確定　補助金振込

赤字：　市町村又は協議会が行うもの

緑字：　補助対象者（事業者、市町村（有償運送の場合）又は※協議会）が行うもの

青字：　国が行うもの

今回

令和6年度事業　地域内フィーダー系統補助スケジュール

令和5年度　4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
令和6年度　4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
令和7年度　4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

計画認定申請　認定

R6年度事業
（地域内フィーダー系統補助）
（事業期間　R5.10.1～R6.9.30）

補助金交付申請　一次評価　二次評価　交付決定及び額の確定　補助金振込

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

【前回（令和4年度事業）の九州運輸局二次評価結果（R5.3.27）】
評価の指標は、系統別の利用者数。公共交通計画策定に伴い実施した調査結果を踏まえ、外出機会の創出や公共交通に乗る楽しみを感じてもらうための各種取組を実施されたことを評価します。全体的に目標を下回る結果となっていますが、その要因が新型コロナウイルス感染症の影響以外にないかどうかについても分析をお願いします。引き続き、利便性向上や利用促進に取り組んでいただくとともに、地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくことにより、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。

協議会名：　大牟田市地域公共交通活性化協

評価対象事業名：R5年度地域内フィーダー系統確保維持

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
西鉄バス大牟田（株）	米の山・黒崎団地線（18番系統） ●西鉄大牟田営業所～大牟田駅前～ 黒崎団地前 ●大牟田駅前～新栄町～黒崎団地前 ●新栄町～手鎌～黒崎団地前	【新型コロナウイルス以外の影響について】 ・コロナ前からの人口減少による利用者の減少 ・コロナ禍による生活様式の変化（外出機会の減少）がコロナ5類移行後も定着している事による利用者の減少 上記の要因から、外出機会を創出するため以下の取り組みを実施。 ・路線バスを含む公共交通デジタルスタンプラリーを実施した。 ・バスを身近に感じてもらう取組の一環として、小学校の低学年を対象にしたバスの乗り方教室を実施した。 ・石炭産業科学館でバス運転手体験会とバス乗車体験を実施した。 ・おおむた大蛇山まつり100円バスを実施した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	C	【目標】利用者数77,739人 【実績】利用者数69,768人 市中心部から国道208号を経由、市北部の吉野地区、橘地区を半時計まわりに循環し、大牟田病院、市立病院、大牟田駅を結ぶ路線であり、利用促進事業等等を行った結果、18番系統の利用者が前年比（R4_57,255人）の約1.2倍となり、利用者も増加したが、目標達成には至らなかった。	新型コロナ5類移行により、当路線の利用が戻りつつあるが、時間帯によっては、空に近い状態で運行を行っている便があることから、適切な便数やダイヤについて検討し、運行の効率化を図る。また、免許返納等、自家用車利用から公共交通への転換を図るような施策との連携など、効果的な取組みを実施し利用者増を目指す。
西鉄バス大牟田（株）	米の山・黒崎団地線（10番系統） ●西鉄大牟田営業所～市立病院～普光寺 ●西鉄大牟田営業所～大牟田駅～米の山 ●大牟田駅～普光寺 ●大牟田駅～米の山 ●西鉄大牟田営業所～大牟田駅～普光寺	同上 ・普光寺のバス停で降車の際に配布される抽選券で特産品が当たるイベントを実施した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	C	【目標】利用者数122,684人 【実績】利用者数107,419人 市中心部から市東部の公営団地を経由し山間部までを運行する路線で、利用促進事業等等を行った結果、10番系統の利用者が前年比（R4_91,249人）の約1.2倍となり、利用者も増加したが、目標達成には至らなかった。	同上

西鉄バス大牟田（株）	上官線（16番系統） ●ゆめタウン大牟田～笹林～倉掛 ●ゆめタウン大牟田～笹林～万田坑 ●ゆめタウン大牟田～笹林～万田坑	【新型コロナウイルス以外の影響について】 ・コロナ前からの人口減少による利用者の減少 ・コロナ禍による生活様式の変化（外出機会の減少）がコロナ5類移行後も定着している事による利用者の減少 　上記の要因から、外出機会を創出するため以下の取り組みを実施。 ・路線バスを含む公共交通デジタルスタンプラリーを実施した。 ・バスを身近に感じてもらう取組の一環として、小学校の低学年を対象にしたバスの乗り方教室を実施した。 ・石炭産業科学館でバス運転手体験会とバス乗車体験を実施した。 ・おおむた大蛇山まつり100円バスを実施した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	B	【目標】利用者数28,204人 【実績】利用者数28,176人 市中心部から市南部を通過し、荒尾市にある世界文化遺産三池炭鉱万田坑までを結び、また大型商業施設にアクセスする路線であり、利用促進事業等等を行った結果、16番系統の利用者が前年比（R4_23,466人）の約1.2倍となり、利用者も増加したが、目標達成には至らなかった。	新型コロナ5類移行により、当路線の利用が戻りつつあるが、コロナ以前から利用の少ない当路線に対して、引き続き利用促進事業を行い、免許返納等、自家用車利用から公共交通への転換を図るような施策との連携など、効果的な取組みを実施し利用者増を目指す。
西鉄バス大牟田（株）	大牟田市内線（1番系統） ●西鉄大牟田営業所～大牟田駅～三池中町 ●西鉄大牟田営業所～大牟田駅～久福木団地	同上	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	C	【目標】利用者数8,009人 【実績】利用者数4,993人 市中心部から市南部を通過し、荒尾市にある世界文化遺産三池炭鉱万田坑までを結ぶ路線で、利用促進事業等等を行った結果、本路線の利用者が前年比（R4_4,331人）の約1.2倍となり、本路線の利用者も増加したが、目標達成には至らなかった。	路線の見直しにより、運行便数が大幅に削減されたため、目標値には達しないものの、新型コロナ5類移行により、当路線の利用が昨年と比べ増加している。このことから、当路線にあった目標値の設定を行うほか、コロナ以前から利用の少ない当路線に対して、引き続き利用促進事業を行い、免許返納等、自家用車利用から公共交通への転換を図るような施策との連携など、効果的な取組みを実施し利用者増を目指す。
西鉄バス大牟田（株）	吉野線（57番系統） ●西鉄大牟田営業所～橘交差点・大牟田病院前～西鉄大牟田営業所 ●西鉄大牟田営業所～橘交差点・大牟田病院前～大牟田市立病院 ●大牟田市立病院～橘交差点・大牟田病院前～大牟田市立病院	同上	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	C	【目標】利用者数217,465人 【実績】利用者数188,284人 市中心部から国道208号を経由、市北部の吉野地区、橘地区を半時計まわりに循環し、大牟田病院、市立病院、大牟田駅を結ぶ路線で、利用促進事業等等を行った結果、57番系統の利用者が前年比（R4_164,426人）の約1.1倍となり、利用者も増加したが、目標達成には至らなかった。	目標値には達しないものの、新型コロナ5類移行により、当路線の利用が昨年と比べ増加している。また、新大牟田駅への利便性を向上するため、R5年11月より新大牟田駅に接続を行っている。今後は利用に応じた適切なダイヤ、便数の設定を検討するほか、引き続き利用促進事業を行い、免許返納等、自家用車利用から公共交通への転換を図るような施策との連携など、効果的な取組みを実施し利用者増を目指す。

別添１－２

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年　　月　　日

協議会名：	大牟田市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名：	R5年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

地域の交通の目指す姿 （事業実施の目的・必要性）	大牟田市では、九州新幹線を始めJR鹿児島本線や西鉄天神大牟田線の鉄道を中心に、路線バスなどが補完する形で公共交通ネットワークが形成されている。特に路線バスは通勤、通学、通院、買い物など地域住民の身近な交通手段として市民生活を支えるとともに、市内の地域間をつなぐ交通ネットワークとして重要な役割を担っている。 しかしながら、交通手段の多様化、自家用車の普及拡大、人口減少、さらには近年の新型コロナウイルスの影響により路線バスの利用者は年々減少し、公共交通の維持は容易ではない状況である。 そのため、現在、バス事業者から市内の路線バスに対するフィーダー系統の補助の申出は、米の山・黒崎団地線（10番系統・18番系統）、上官線（16番系統）、大牟田市内線（1番系統）、吉野線（57番系統）の5路線となっており、すべての路線が、他の路線や他の公共交通機関に置き換えることのできない生活路線として、その地域唯一の公共交通機関であることから、補助を行い、存続することとしている。 こうしたことから、地域公共交通確保維持改善事業を活用し、地域住民の重要な生活交通手段である路線を確保・維持することが必要である。また、令和5年3月に多様な交通手段の活用を含め、将来の公共交通を維持するために「大牟田市地域公共交通計画」の策定を行った。この計画に基づき、計画対象期間において現状の公共交通網を維持しつつ、足りない部分を補完するとともに、課題がある部分は改善し、将来に向けた市内外の移動への対応として事業を実施する。

（判断基準）

【国土交通省事業評価に関するガイダンスより】

○事業実施の適切性

事業計画に基づく事業が適切に実施されたかを、Ａ，Ｂ，Ｃの３段階で評価する。計画どおり実施されなかった場合は、理由等を明らかにする。

Ａ・・・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された

Ｂ・・・事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった

Ｃ・・・事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった

○目標・効果達成状況

事業計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成された（達成される見込み）かを、設定した目標ごとにＡ，Ｂ，Ｃの３段階で評価する。

目標・効果が達成できなかった（達成できない見込み）場合には、理由等を分析の上明らかにする。

Ａ・・・事業が計画に位置づけられた目標を達成した（する見込み）

Ｂ・・・事業が計画に位置づけられた目標を達成できていない点があった（一部達成できない見込み）

Ｃ・・・事業が計画に位置づけられた目標を達成できなかった（達成できない見込み）

【大牟田市地域公共交通活性化協議会】

○目標・効果達成状況

Ａ・・・事業が計画に位置付けられた目標を達成した（利用者数が目標値以上）

Ｂ・・・事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった

（利用者数が目標値と比較して、９５％以上目標値未満）

Ｃ・・・事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった

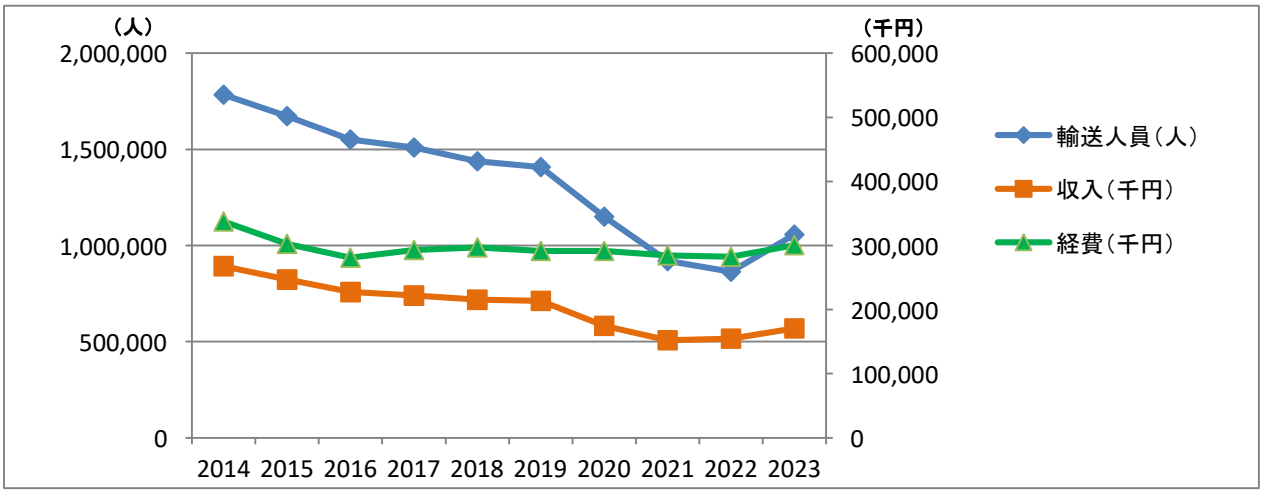
（利用者数が目標値と比較して、９５％未満）

近年の路線バスの利用状況

〇市内全体

（高速バス、グリーンランド線、イオンモール線、帝京大学線は除外）

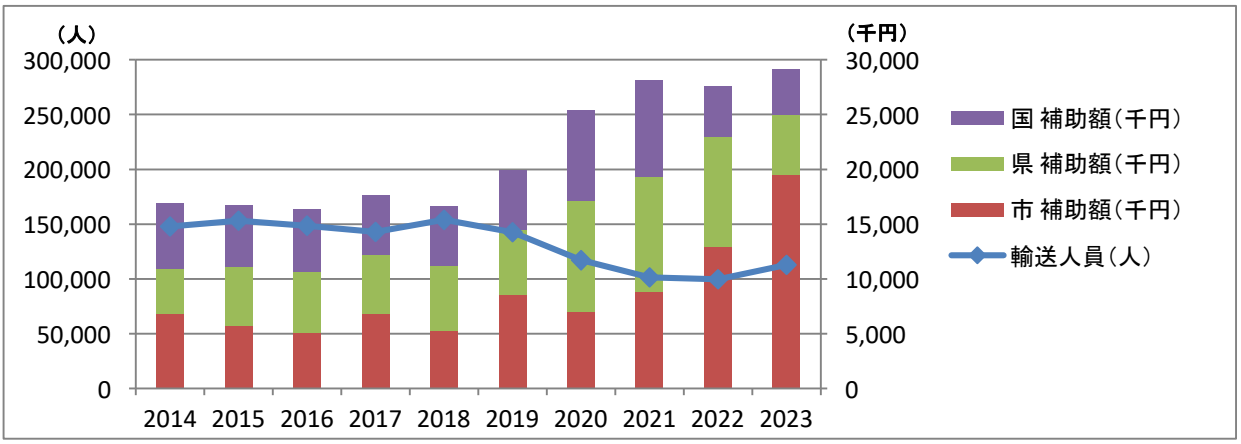
補助年度	輸送人員（人）	収入（千円）	経費（千円）	収支率
2014	1,783,705	267,747	337,455	79.3%
2015	1,672,947	246,836	302,533	81.6%
2016	1,550,709	227,343	280,892	80.9%
2017	1,509,527	221,808	293,045	75.7%
2018	1,437,957	215,376	296,905	72.5%
2019	1,408,279	213,449	291,325	73.3%
2020	1,149,543	174,604	291,463	59.9%
2021	919,217	152,279	284,485	53.5%
2022	863,524	154,733	282,510	54.8%
2023	1,056,516	170,693	300,348	56.8%



○吉野線（55番系統）

補助年度	輸送人員（人）	収入（千円）	経費（千円）	収支率	市 補助額（千円）	国 補助額（千円）	県 補助額（千円）
2014	147,813	25,049	45,647	54.9%	6,780	6,032	4,085
2015	153,120	24,285	44,659	54.4%	5,750	5,595	5,368
2016	148,590	25,386	45,253	56.1%	5,118	5,643	5,535
2017	142,913	25,246	46,732	54.0%	6,809	5,395	5,421
2018	153,881	28,615	48,944	58.5%	5,297	5,450	5,929
2019	142,540	25,506	49,848	51.2%	8,600	5,453	5,891
2020	117,092	19,023	50,029	38.0%	7,006	8,269	10,100
2021	101,429	18,292	52,691	34.7%	8,824	8,794	10,533
2022	99,726	20,031	53,757	37.3%	12,957	4,626	10,018
2023	112,830	21,704	57,926	37.5%	19,513	4,111	5,502

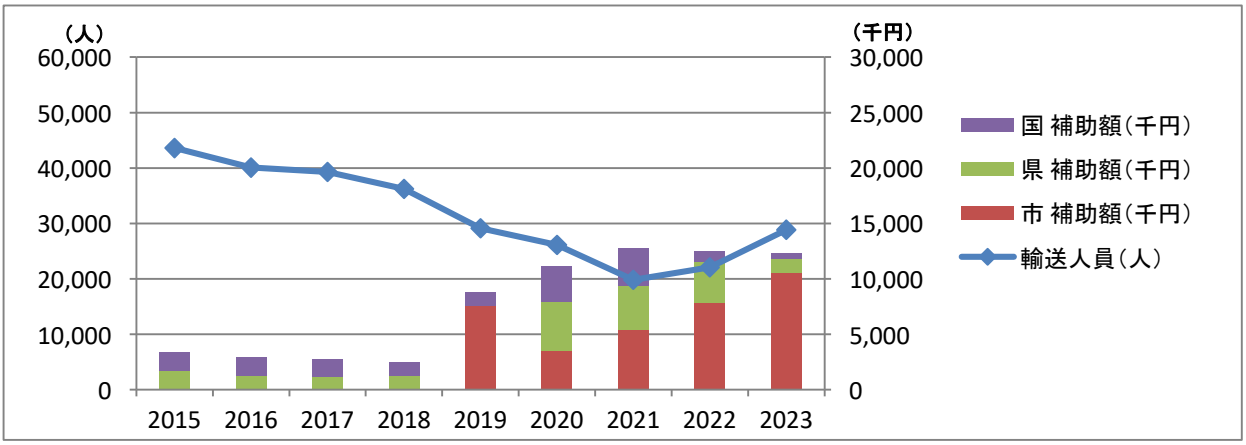
※補助額は市内運行区間の対象額を表示。



○上官線（25番系統）

補助年度	輸送人員（人）	収入（千円）	経費（千円）	収支率	市 補助額（千円）	国 補助額（千円）	県 補助額（千円）
2015	43,598	9,119	16,388	55.6%		1,639	1,677
2016	40,075	7,473	16,618	45.0%		1,693	1,245
2017	39,303	7,648	17,164	44.6%		1,586	1,202
2018	36,219	7,110	17,969	39.6%		1,232	1,233
2019	29,139	5,372	14,244	37.7%	7,554	1,233	0
2020	26,125	4,403	15,651	28.1%	3,488	3,228	4,424
2021	19,818	3,637	16,523	22.0%	5,428	3,350	3,985
2022	22,063	4,230	16,859	25.1%	7,809	908	3,791
2023	28,861	5,402	17,767	30.4%	10,609	467	1,171

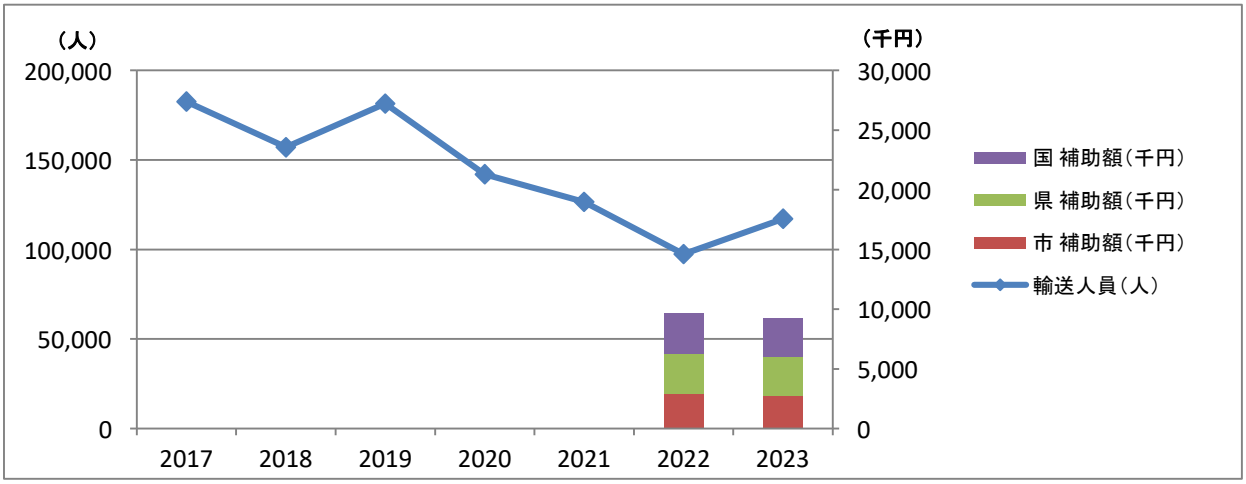
※補助額は市内運行区間の対象額を表示。



○大牟田市内線（2番系統）

補助年度	輸送人員（人）	収入（千円）	経費（千円）	収支率	市 補助額（千円）	国 補助額（千円）	県 補助額（千円）
2017	182,577	27,798	30,591	90.9%	0	0	0
2018	157,064	26,108	32,120	81.3%	0	0	0
2019	181,418	28,094	33,878	82.9%	0	0	0
2020	142,027	22,369	32,341	69.2%	0	0	0
2021	126,624	20,242	33,943	59.6%	0	0	0
2022	97,454	16,251	25,338	64.1%	2,888	1,535	3,368
2023	117,169	17,394	26,688	65.2%	2,783	1,978	3,208

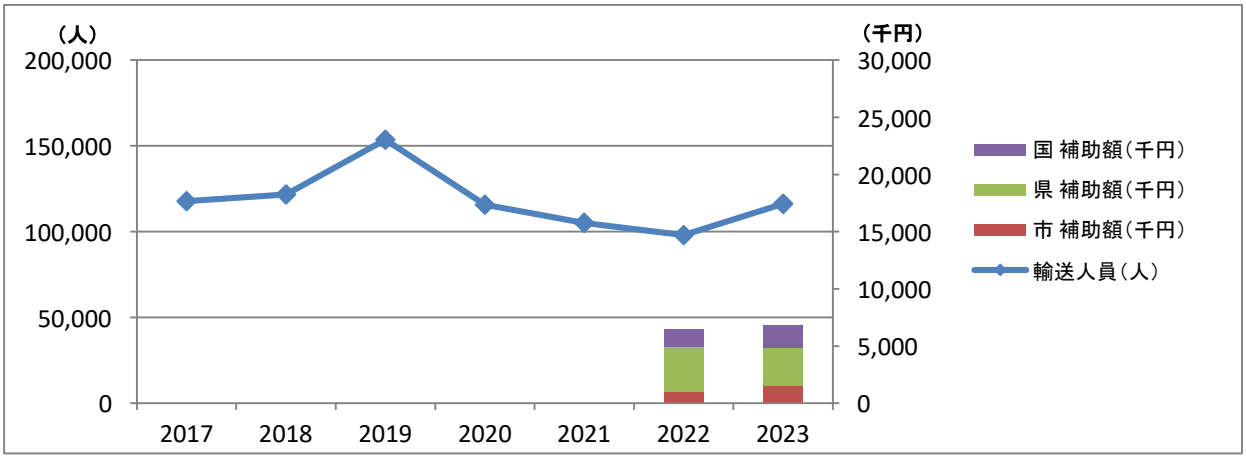
※補助額は市内運行区間の対象額を表示。



○大牟田市内線（4番系統）

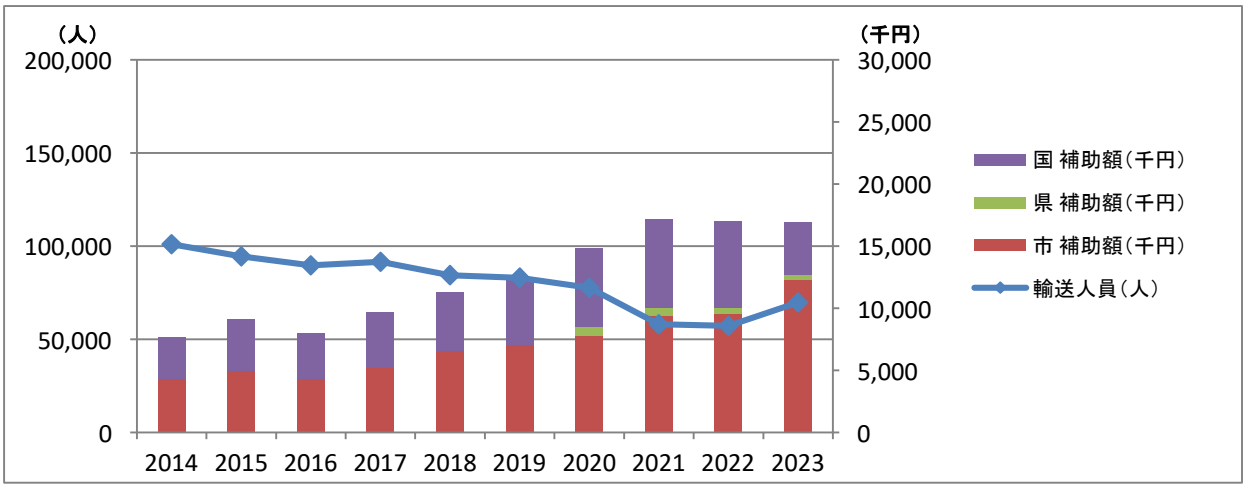
補助年度	輸送人員（人）	収入（千円）	経費（千円）	収支率	市 補助額（千円）	国 補助額（千円）	県 補助額（千円）
2017	117,765	17,563	19,165	91.6%	0	0	0
2018	121,639	18,657	24,612	75.8%	0	0	0
2019	153,602	22,050	26,588	82.9%	0	0	0
2020	115,780	17,917	26,346	68.0%	0	0	0
2021	105,157	16,604	27,803	59.7%	0	0	0
2022	97,996	16,314	23,949	68.1%	1,046	1,526	3,884
2023	116,207	17,232	25,243	68.3%	1,537	1,935	3,302

※補助額は市内運行区間の対象額を表示。



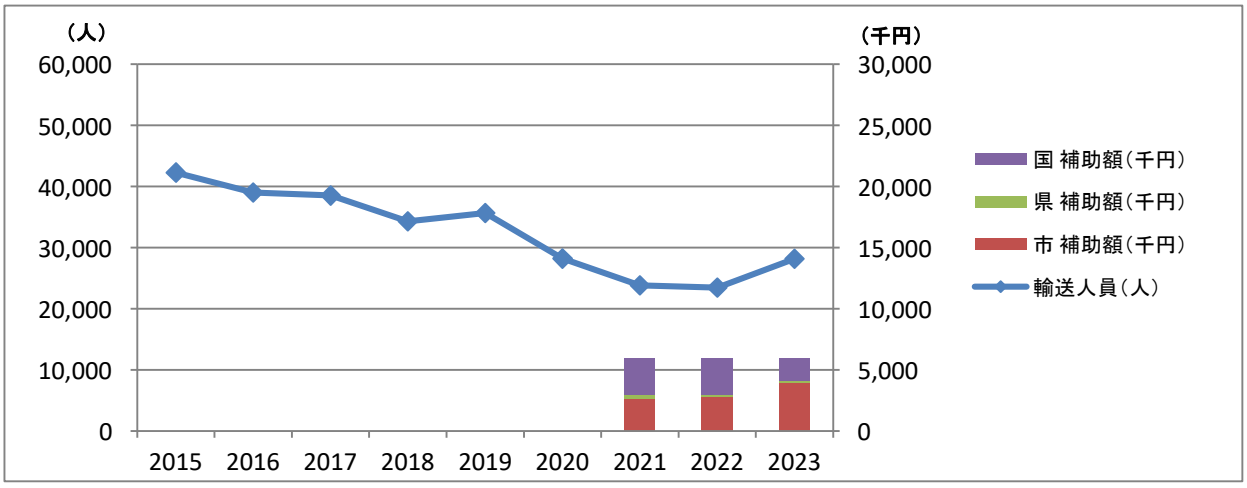
○米の山・黒崎団地線（18番系統）

補助年度	輸送人員（人）	収入（千円）	経費（千円）	収支率	市 補助額（千円）	国 補助額（千円）	県 補助額（千円）
2014	101,108	15,021	22,731	66.1%	4,330	3,380	0
2015	94,559	13,075	22,219	58.8%	4,987	4,157	0
2016	89,762	14,561	22,544	64.6%	4,332	3,651	0
2017	91,628	13,593	23,271	58.4%	5,205	4,473	0
2018	84,473	12,517	23,812	52.6%	6,562	4,733	0
2019	83,103	12,154	24,407	49.8%	7,091	5,162	0
2020	77,739	9,760	24,595	39.7%	7,794	6,288	753
2021	58,146	8,894	26,019	34.2%	9,399	7,101	624
2022	57,255	9,584	26,574	36.1%	9,581	6,955	453
2023	69,768	11,126	28,021	39.7%	12,360	4,210	325



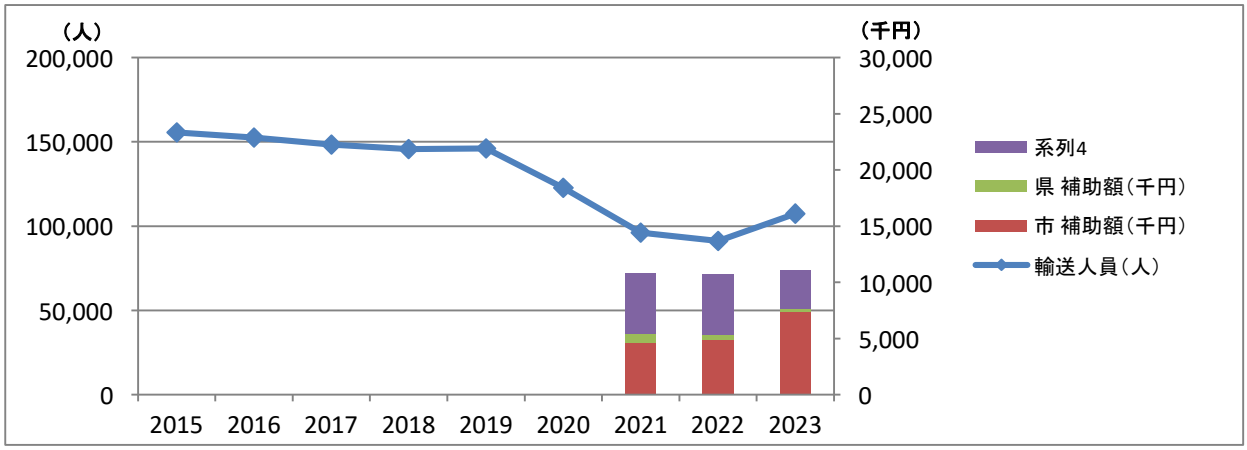
○上官線（16番系統）

補助年度	輸送人員（人）	収入（千円）	経費（千円）	収支率	市 補助額（千円）	国 補助額（千円）	県 補助額（千円）
2015	42,268	7,624	10,194	74.8%	0	0	0
2016	39,014	6,813	8,507	80.1%	0	0	0
2017	38,508	5,171	8,894	58.1%	0	0	0
2018	34,280	6,009	9,307	64.6%	0	0	0
2019	35,661	5,529	9,483	58.3%	0	0	0
2020	28,204	4,688	9,486	49.4%	0	0	0
2021	23,839	4,071	10,094	40.3%	2,636	3,010	322
2022	23,466	4,337	10,294	42.1%	2,797	2,978	174
2023	28,176	4,939	10,868	45.4%	3,984	1,811	126



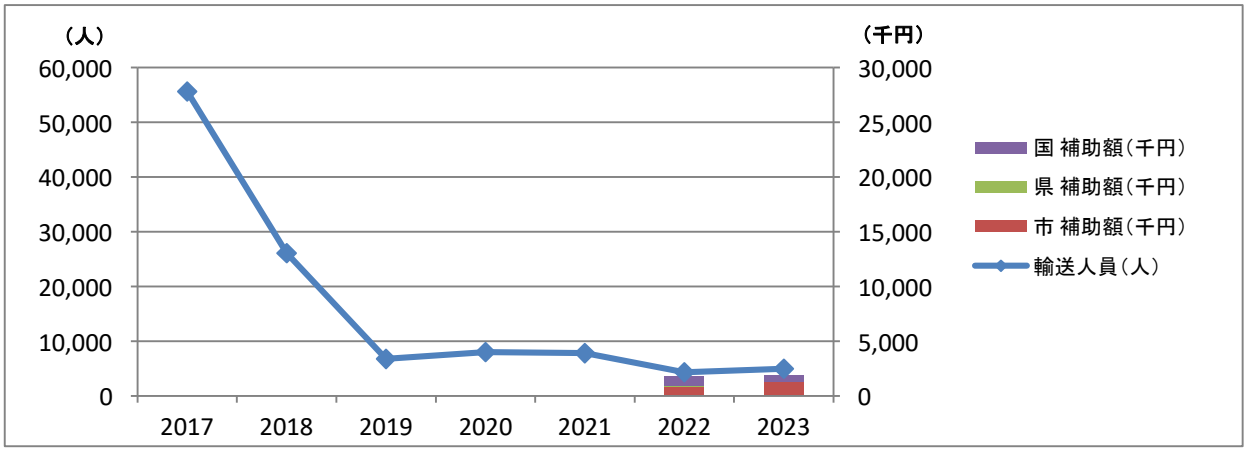
○米の山・黒崎団地線（10番系統）

補助年度	輸送人員（人）	収入（千円）	経費（千円）	収支率	市 補助額（千円）	国 補助額（千円）	県 補助額（千円）
2015	155,525	22,082	24,395	90.5%	0	0	0
2016	152,602	19,429	24,718	78.6%	0	0	0
2017	148,415	19,554	25,523	76.6%	0	0	0
2018	145,750	19,979	26,734	74.7%	0	0	0
2019	146,051	18,358	24,757	74.2%	0	0	0
2020	122,684	15,487	23,828	65.0%	0	0	0
2021	96,106	14,748	25,590	57.6%	4,603	5,419	820
2022	91,249	15,354	26,113	58.8%	4,937	5,379	443
2023	107,419	16,459	27,548	59.7%	7,383	3,387	319

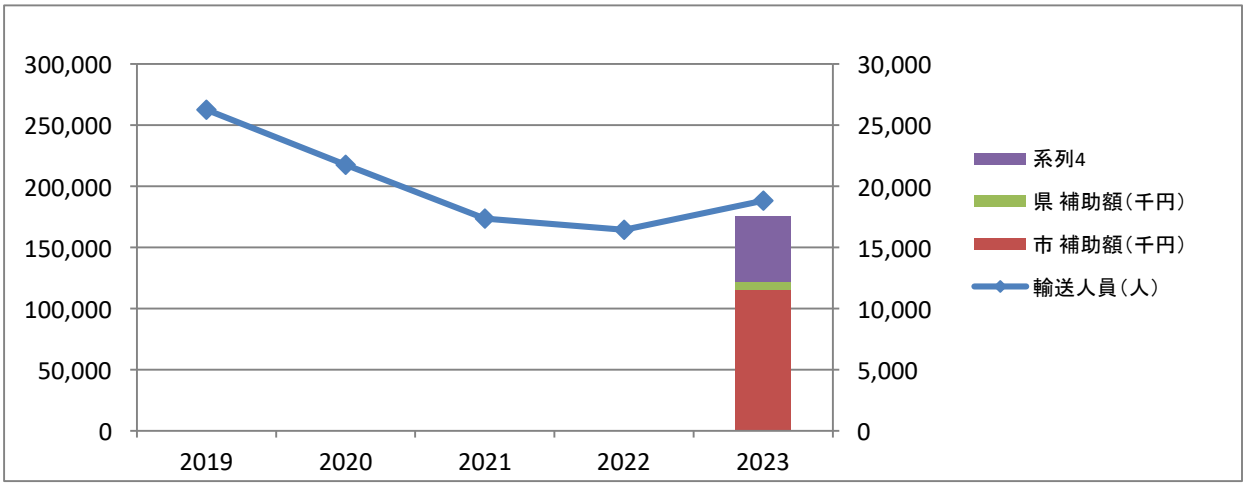


○大牟田市内線（1番系統）

補助年度	輸送人員（人）	収入（千円）	経費（千円）	収支率	市 補助額（千円）	国 補助額（千円）	県 補助額（千円）
2017	55,649	7,532	7,585	99.3%	0	0	0
2018	26,093	3,562	4,704	75.7%	0	0	0
2019	6,777	915	2,273	40.3%	0	0	0
2020	8,009	1,195	2,796	42.7%	0	0	0
2021	7,827	1,149	3,150	36.5%	0	0	0
2022	4,331	714	2,572	27.8%	886	928	44
2023	4,993	807	2,711	29.8%	1,291	581	32



○吉野線（57番系統）

補助年度	輸送人員（人）	収入（千円）	経費（千円）	収支率	市 補助額（千円）	国 補助額（千円）	県 補助額（千円）
2019	262,611	40,182	56,870	70.7%			
2020	217,465	33,978	56,731	59.9%			
2021	173,581	26,993	44,686	60.4%			
2022	164,426	29,128	45,560	63.9%			
2023	188,284	31,635	49,174	64.3%	11,605	5,363	571

※補助額は市内運行区間の対象額を表示。